

## 第 44 回 全国選抜高校テニス大会 視察報告

北海学園札幌高等学校

菊地 浩太

令和 4 年 3 月 20～26 日に行われた全国選抜高校テニス大会に、北海道高体連テニス専門部からのご支援をいただき視察研修をさせていただきました。個人的な主観とはなりますが、そこで学んだこと、感じたことを北海道の高校テニスに還元するため、視察報告という形で共有させていただきます。

本視察で最も強く印象を受けたのは、全国大会というレベルの高い環境

でも、目新しい技術やテクニック、特別なことは何一つ要求されないということでした。むしろ大切なことは、「ボールに対して細かく足を刻んで調節して入る。」「ラリー中に攻められて苦しいときは弾道を上げて時間を稼ぐ。」「基本は深いボールでラリーをし、相手の球が浅くなったらコートに入って打つ。」などといった誰もが当たり前でそうすべきと知っていることでした。これらのすべきこと一つ一つをどれだけ突き詰められるか、また、アンフォーストエラーなど、してはいけないことをどれだけ減らせるかが、強い選手、勝ち上がる選手であるための根本的な要因であると感じました。もちろん自分自身もこれまでの経験から感じてはいましたが、今回改めて目の前で全国選手のプレーを見て実感し、自信をもって再確認できたことが本視察の一番の収穫だと感じています。特にシングルス 3 やダブルス 2 で出場している選手の中にはテニスの経験が短いであろう選手もいますが、そのような選手こそサーブやストロークをまずはしっかり入れるというベースが非常に大事であるということが改めて気づかされます。

続いては、少し細かいプレーについてです。1 つ目は勝つ選手、ポイントを自分のものにできる選手は、相手を動かす意識が高いと感じました。全国選手は皆、相手の打球が少し浅くなったり余裕があるに時はしっかりとコートに入って攻めていきますが、そこでポイントを獲得するために重要なのは球の速さではなく



配球でした。かなり打球が速くても動かずに触れるところに落ちればあまり守りを崩せず返球されますが、そこまで速くなくとも相手を動かすように送れば相手の守りは崩れ、ポイントに繋がっていました。ベースライン上のラリーでも同じで、リスクを負って一発の打球でエースを取りに行くのではなく、自分のリスクは低いまま、相手を動かすように配球してポイントを重ねることがゲーム取得に、ひいては勝利につながっていました。

2つ目は、ダブルスのレベルアップには、前衛の積極性およびペアとして前への意識が重要であると感じました。常に前衛がチャンスをつかみ、多少リスクを背負ってでもポイントに絡みに行く積極性が重要でした。素晴らしい技術やショットを持っている選手が集まっているため、1ゲームの中では後衛のストロークでエースを取ったり相手の前衛



の逆を突くといった場面等もありましたが、最終的にゲームを取って勝利するのはそれでもなお積極的に仕掛ける前衛が機能するペアでした。ボレーの技術はある前衛でも自分からは動かずにチャンスを待つ姿勢だと、ほとんど相手に先に仕掛けられて劣勢となり、ゲームを失っていました。さらに上のレベルになると前衛後衛問わず常に前に行く機会をつかみ、できるだけ前に詰めてボレーで展開し、結局のところ平行陣となるような展開をしていました。特に前衛のボレーは前への意識が非常に強く、俗に軟式ボレーと表現されるような詰めとボレーでポイントを取っていました。

今回の貴重な経験を活かして、自校の部活の発展はもちろん、北海道の高校テニス全体の発展に貢献していきたいと思います。最後に、本視察を手厚くサポートして下さった川口先生、長永先生をはじめ、このような機会と支援をくださった専門部の先生方、お忙しい中にもかかわらず現地で快くアドバイスやご指導をくださった各校顧問の先生方に心より感謝申し上げます。